

衣のNGO

ふるぎのゆとをいかに?

JFSA

わたがくらしをささえる

せかいのきもちをかんたえる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会

〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10

Tel・Fax : 043-234-1206 (木曜定休)

E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp

ホームページ : <https://jfsa.jpn.org/>

会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください

会報 52 号 2020 年 5 月

新型コロナウイルスの感染により被害に遭われた多くの方に心よりお見舞い申し上げます。

感染が広がる中で運営への影響も小さくありませんが、皆さまの協力により活動を続けられていることに感謝申し上げます。

今号では、こうした状況の中でのアル・カイルアカデミーとJFSAの様子をお知らせします。



アル・カイルアカデミー第5分校で学んでいる子どもたち。
休校中で、近所の友だちや妹たちと学校ごっこをしている。

目次

新型コロナウイルス感染症とアル・カイルアカデミー	2 ~ 4p
kar-khana (カルハナ) 事業	「限られた動きの中で」 5p
東葛センターだより	「腕の見せ所」 6p
千葉センターだより	「日常の一部」 7p
kapre (カブレ) オンラインストア展開中	8p



JFSA のホームページ

新型コロナウイルス感染症とアル・カイルアカデミー



分校の周辺に住んでいる家族に暮らしの様子を尋ねる
アル・カイルアカデミー教師のナヴィードさん（左）

新型コロナウイルスの感染が世界中で広がる中、JFSAへも「パキスタンの人たちは大丈夫ですか？」というご心配の電話を多くいただいています。5月20日現在、パキスタン政府は4万3千966名の感染が確定し、これまでの死亡者数は939名、そして1万2千489名が回復していると発表しています。中でも大きな都市を有するシンド州（カラチ市を含む）と、パンジャーブ州では、それぞれ感染者数が1万3千名以上を超えています。

新型コロナウイルスによるアル・カイルアカデミーの生徒や家族、スラムの人々の暮らしや学校への影響をより詳しく知るため、5月10日にムザヒル校長とカユーム氏に電話でインタビューを行いました。日本もパキスタンも困難な状況ではありますが、彼らと言葉を交わす中でJFSAとアル・カイルアカデミーの活動の目的に立ち返り、お互い活動への連帯を再確認することができました。

【質問】まずアル・カイルアカデミーの状況を教えてください。

【ムザヒル校長】政府が3月に休校を決めてから、子ども達への教

育活動を一切禁止しているので、現在、アル・カイルアカデミーは全校休校しています。はじめの頃は先生へのトレーニングだけでも継続しようかと思いましたが、そのような活動も禁止されている状況です。

【カユーム氏】私は総務も兼任しているので学校へ仕事に行っています。他にも会計担当者や一部の職員は仕事をしています。本校内の縫製工房はメンバー全員が今でも通っていて、日本からのオーダー「Kar-khana（カルハナ）」の仕事（5p参照）をしています。

【質問】新型コロナウイルスにより、子どもたちの暮らしはどんな影響を受けていますか？

【ムザヒル校長】私たちの生徒がウイルスに直接感染したという情報はありません。しかし子どもたちは学校に通わず、スラム地域の家の外の危うい環境で時間を費やしているので、彼らは間接的に影響を受けます。教育と教師のポジティブな影響がなければ、これらの生徒はマフィアに引き込まれる可能性が非常に高くなります。長期化すれば、学校が再開するときに生徒の退学が考えられます。

外出禁止令と食糧支援

【質問】アル・カイルアカデミー周辺の状況や、学校の現在の活動について教えてください。

【ムザヒル校長】生徒の親たちの多くは日雇い労働者として建築現場で働いたり、物売りをしています。彼らは外出禁止令によって失業しています。また私たちは休校し、学校の運営費となる寄付金が減少したため、教師の3月と4月分の給与を30%削減する必要があるました。このような状況で、学校としては生徒や教師、スタッフの家族、また学校

とは直接繋がりが無くても困窮している家族に対して主要な食糧の支援を行なっています。これまで合計で約2千500世帯に配布しました。30日分の食糧を配布しなかったのですが、なるべく多くの人へ届けるために10日分のみ配布することにしました。今後も更に2千500世帯に配布する予定です。私たちはこの食糧支援のために、寄付の呼びかけを行なっています。

【カユーム氏】本校では、先生やスタッフ（20〜30名）が、食糧の準備や配布作業にあたっています。また、各分校長は担当する分校の周辺住民の生活状況を調査をしています。教師の中でも第3分校で高学年に数学を教えているナヴィードさん、教務主任のヤスミンさんは別のスラム地域の支援のための調査もしています。もしその地域で支援が必要であることが判明した場合は、ムザヒル校長や私が現地を訪問して確認の上、支援を行なっています。

【質問】様々なNGOも食糧支援を行なっているようですが、どのような状況ですか？

【ムザヒル校長】過去1か月間、NGOは困っている人々に食糧支援をとても積極的に行なってきました。しかし最近では、地元の個人や企業

の寄付が減り、ほとんどの団体が資金難で、これまでと同じ量の配布を継続することができなくなってきました。私たちは私たちの役割が今後重要であると思っています。一方でパキスタン政府は、困窮している家族に1ヶ月3千ルピーを提供し始めました。

子ども達が学校に親しみを
持ち続けられるように

【質問】今は食糧支援をしています
が、長期的にはアル・カイルアカデミーとしてどのような活動を考えていますか？

【ムザヒル校長】パキスタンの失業率は先進国よりも非常に高いため、食料支援は今度4〜6ヶ月間ほど必要だと考えています。
現在、学校の教師やスタッフが生徒の家を訪問して状況を聞き取り、教師からの意見や提案も受けています。しかし、生徒との定期的なつながりは持てておらず、彼らの学習プログラムも計画できない状態です。
ラマダーン（断食月）明けのイード（祝祭日、今年は5月25日頃）の後、適切な感染予防策を講じて教師のトレーニングを再開する予定です。特に本校と第6分校の教師の多くは生徒と同じ地域に住んでおり、隣人同士です。教師には4〜5人の生徒を各自の家へ招いて、教育活動やコロナウイルスについての正しい理解の



本校で食糧支援用の豆を1世帯分ずつ袋に詰めている

1世帯（6〜7人分）に配布している食糧セット
小麦10kg、米5kg、砂糖2kg、豆類2kg、
油5リットル、茶葉500gなど



限られた動きの中で

パキスタンは、この原稿を書いている5月現在、ようやくコロナウイルスによるロックダウンが緩和されていく方向に舵を切り始めました。それまでは家を出ることもほとんどかなわない状況だったそうです。現在は縫製工房のスタッフは全員元気に仕事にきているそうです。しかし、ロックダウン以降は州政府からの学校運用のストップがかかっていました。そんな中でも日本からのオーダーを滞らせるわけにはいかない、と学校の中にある工房に来て仕事をスタッフもいました。また、家族がいるから工房には行けないが、家に素材を全部持って帰って仕事を進めてくれるスタッフもいました。家にとどまって、無理をしないでほしいという気持ちもある一方、皆が元気であり、仕事に誇りを持ってくれていると感じ、とてもうれしい限りでした。



休憩時間にチャイを飲む縫製工房スタッフ

タン屋が開いていない。代わりに置いておいた別のボタンで大丈夫だろうか？」といった連絡を写真とともに頻繁にくれました。またある時は、糸や生地屋のオーナーに直接連絡し、お願いをして彼のために店を開けてもらい、素材を調達することができています。

カラチの様子は写真と電話で聞き及ぶ限りで、早く現地へ赴き確認をしたいのですが、はやる気持ちを抑えつつ、電話口の元気な声を聞いてこちらも踏ん張りどころだ、と元気づけられます。

カルハナ商品紹介



・リネン プルオーバーシャツ

ヨーロッパのヴィンテージシャツのデザインを基に、リネン100%の生地で作ったシャツになります。聞きなじみのある「リネン」という素材名ですが、原材料が「亜麻(フラックス)」と呼ばれるもので、同じ漢字を使う「麻(ヘンプ、ジュートなど)」のようにチクチクするものとは異なり、シルクのような見た目と肌触りがとても心地のいい通年で活躍する素材となっています。着るたびに柔らかさが増えいき、風合いの良さを楽しめます。カラーバリエーションも豊富にしてい予定。男女年齢問わずサラッと着られる商品です。



・カッディ プルオーバーシャツ

綿100%の「手織り」の生地、「カッディ」を使用しています。過去の会報でも紹介したカッディ職人であり、アル・カイルアカデミーでも子どもたちにその技術を教えているファハドさんが織った生地です。手織り独特の柔らかな風合いはリネンとはまた違った着心地の良さを表現してくれます。無地だけでなく、ペイズリーなどの織模様が入った生地を使用したものもあります。カラーだけでなく、柄も豊富にしてい予定。

これらの商品以外にも様々なものをkapre千葉店・柏店やイベント出店時で販売しています。今後はインターネット上でも販売できるように進めていく予定です。

場作りができないか相談したいと考えています。

他の分校では、教師がその周辺に行くことは容易ではないので、次の段階で何らかの計画をたてるつもりです。

新型コロナウイルスと

イード(祝祭日)

【質問】スラム地域の人々とミドルクラスなどの人々はそれぞれどのような影響を受けていますか？

【ムザヒル校長】国民は大なり小なり、影響を受けています。多くのミドルクラスの人々は家計の支出を減らし、食費に充てています。一方、スラム地域の人々は自分の子どもたちに食べさせることさえ苦労しています。

【カユーム氏】お金持ちの人であれば、新型コロナウイルスの情報

を得て、握手を控えたりマスクをすることもできます。一方、スラム地域の住民にとっていちばんの心配は外出禁止令によって仕事がなくなくなっていることです。彼らの住居には水道など衛生上必要な設備は無く、感染対策を積極的に考えること自体が困難です。

例年であれば、今はラマダーン明けのイードのお祝いに向けて民族服や食べ物の店が賑わっています。しかし今年は食料品店以外の営業が禁止されています。住民の関心も、食糧の確保が第一で、服を新調することには向いていないようです。

【質問】カユームさんに質問です。あなたの故郷のバラコート(北方地域)周辺はどのような状況ですか？

【カユーム氏】私の出身の村では、村人が周辺の街に買い物へ行くことを控えるなどしており、感染者はまだ少ないようです。

カラチには私たちの村や周辺の街からも出稼ぎ者が大勢います。例年であればイードを故郷で迎えるために大勢がこの時期に里帰ります。バラコートまでの約1千

700kmを3千ルピー程の長距離バスで帰省するのですが、今はバスの運行が禁止されていて困っています。私の従兄弟は先日6千ルピーを払い貨物のコンテナ内に20〜30名のすし詰状態で帰省しました。とても危険な行為です。

一つの目的のために

【質問】最後にJFSAの会員、支援メンバーの皆さんへメッセージをお願いします。

【ムザヒル校長】この危機的状況は、私たちの連帯と信念の試練です。この危機の間に多くの寄付者が約束していた寄付を取り消しました。しかし、JFSAの皆さんが私たちと同じように活動しているのを知り、とても嬉しく思います。皆さんの私たちへの関心と、道徳的なサポートに心から感謝しています。今はお互いに分かち合う時であり、協力してこのグローバルなパンデミックを乗り越えましょう。

【カユーム氏】私たちアル・カイルアカデミーとJFSAは、一つの目的のために仕事をしてい

ます。それは子ども達のためです。先進国を含め、今は新型コロナウイルスという共通した問題に直面しています。だからこそ、ここから前に進むために、全ての人が心を一つにする必要があると思います。まずはどの国であろうと、影響を受けている相手のことを考え、支援する必要があります。JFSAの皆さんはこれまで私たちの活動を古着販売事業を通して支援してくださり感謝しています。私は皆さんを家族のように感じていますので、あなた方がウイルスの被害を受けていることを心配をしています。私たちも努力します。これからもお互い相談し合いながら進みましょう。



食糧セットを住民に配る第三分校長のアリさん(左)

腕の見せ所

JFSAは、みなさんの参加、協力により集まった古着と、輸入した古着や縫製工房で製作した衣類などの売り上げで、活動費の約9割を賄っています。販売の場は、各センター併設の店舗『Kapre（カプレ）』と、フリーマーケットやイベントへの出店です。

新型コロナウイルスによる売り上げへの影響は、2月後半から表れ始めました。まず先にイベントの中止がアナウンスされ、徐々に店舗のお客さんの数も減っていきました。会計担当である自分は、落ち込んでいく売り上げと同じように気持ちがどんどん沈んでいきました。「この調子でいつまでもつか」現預金の残高を覗みながら、頭の中で毎日計算していました。ニュースや知人から得られる情報も明るいものはあまりありませんでした。

そんな時に、ある人から「調子どう？影響ある？」と聞かれ、「結構大変です」と答えると、業種によってはとても好調で、中には10倍の売り上げになっているところもあると聞きました。そして最後に、「経営者の腕の見せ所だね」と言われました。その言葉を聞いたときに、自分の視野がとても狭くなっていることに気が付きました。情報も、心配になるものを多く選んで

気にしていたのではないかと思いました。バランスを欠いていたのです。

事務局として日常業務を担当しながら、同時に理事でもある立場は活動を運営する責任者であり、企業でいえば経営者です。冒頭にも書いたようにみなさんの協力、参加を募って活動する団体の責任者が、個人の中の不安や心配を基に行動している場合では無いのです。今の状況を見渡して、できることをやらなくてはいけないと思いました。

そう考えてみると、できること、やらなくてはいけないことは盛り沢山でした。まずは、輸入古着の夏物買付についてです。今まではバキスタンで仕分けて必要なものを買ってきていましたが、今は行けません。これについては卸業者のワリー氏と相談して、仕分けていないものを多めにミックスで送ってもらい、その代わり安くしてもらうことにしました。5月末に日本に到着予定です。これがうまくいけば、今後のやり方も大きく変わるかもしれません。

次にオンラインストアでの販売です。今年度は人手不足もありあまり手をかけられずにいましたが、目標を立て直して取り組むこととしました。そのためにお客さんに来てもらうことができない店舗の中を模様替えし、撮影場所も新しく作りました。これを機に、その場所に必要なツールなど

の小道具を揃えようと、様子伺いを兼ねてそうした商品を扱う知人に声をかけて整えました。業態が変わると言われている中で、整備することは必須だと思います。

また、『Kai-Khana（カルハナ）』事業もバキスタンに行けないことで滞る面があります。今までは現地にサンプルを持って行って、型紙を起こしてもらって製品を作っていました。それについては、サンプルとなる古着を仲良くしている古着屋さんから提供してもらい、東葛センターのスタッフで型紙を起こし、製品サンプルを作っています。この型紙のデータをバキスタンに送って製品を作ることができるようになれば、事業としては前進だと思っています。

このような、新しく始めた仕事はまだまだ「たれば」な部分が多くあります。ただ、今までの関係を見渡すと思い浮かぶ人たちがたくさんいるので、ちよっと手を借り「腕」を借り、協力し合ってやっていきたいと改めて思いました。



サンプル製作中のエプロン

日常の一部

ここ数カ月、世間の様子が変化すると同様、センター内の様子も日々変化しています。毎日のように、世界中で新型コロナウイルスの感染者が増加しているという報道がされ、今後のお店の営業をどうするか、働いている人たちはどうしたら良いのか、仕分け作業に來ている協力団体の方は、古着の回収は・・・と、初めてのこと、先のことが見えない状況にとっても戸惑っていました。

日々状況が変わっていく中、できる対策を取りながら、お店の営業は続けようと、事務局で決めました。しかし、千葉、柏ともに周辺地域の他のお店の様子なども見ながら、その時々での判断も必要ですねと話しました。

緊急事態宣言が出された次の日の4月8日（水）は、選別協力団体による古着の仕分け作業の日でした。その日は、通常よりも空間を広く取り、換気をして作業を行ないました。しかし、作業に來ているオアシスのおじちゃんたちは高齢の方が多く、電車やバスで通っている方や、中には持病がある方もいます。そのため、作業の後、オアシスの職員の方も交えた話し合いで、ゴールドデンウィーク明けまでは一旦作業をお休みにしましょうという事になりました。しかし、一人のおじちゃんは、納得行かない

様子でした。「ずっと家に居るなんて疲れるから嫌だ。これまでも週に一回ここに選別作業に來ることが楽しみで、気晴らしになってたんだから、マスクして電車乗れば大丈夫だから、どうしても來たい。」と言って聞きません。私たちもそう言っていたいてとてもうれしかったのですが、これから先もあなたと付き合って行きたいから、今はどうしても我慢してください、と皆でなんとか説得しました。しかし、「來週も來るからなー」と言い残して帰って行ってしまいました。心配でしたが、次の週からは來ていまずので、皆の想いは伝わったのかなと思います。普段はそんなに多くのことを喋る方ではありませんが、今回のことで、彼にとってJFSAに來て作業することは、生活の一部になっているんだということがとても伝わってきました。

お店を開けていると、近所の方を中心にお店の様子を心配して立ち寄って下さる方がたくさんいます。4月に入ってから來客数も売り上げも大きく減ってしまいました。が、來て下さる方がいるだけでとてもありがたいことです。スーパードに行くついでに來たよと言う方、ずっと家にこもっているから気晴らしに出てきたと言う方、他のお店がやっていないから買い物する場所がなくてと言う方・・・理由は様々です

が、皆さんの日常の一部にJFSAのお店があることを、この間でとても強く感じています。

お店を続けるためには、お客さんにもマスクの着用や手指のアルコール消毒、他の方との距離を保つことなどに協力をお願いしています。また、店内の換気、共有部分の消毒、レジ前にビニールシート設置、お金の受け渡しにはトレーを使う、混雑時の入店制限、など、私たちもできる対策を行なっています。

これまでの日常が大きく変わってしまいましたが、ここに来るといつもと変わらないスタッフが居て、何気ない会話を交わせることが、カプレ千葉店があることの大きな意味なのではないかと感じています。



レジ前の様子

🛒 kapre オンラインストア展開中 🛒

なかなか店舗へ足を運べないお客様にもいつでもお買い物していただけるように、kapreは千葉店・柏店ともにオンラインストアを開設しています。

柏店では2018年から、千葉店は今年の4月から始めました。

● kapre 柏店



HP : kapreonline.theshop.jp/

オンラインストアを始めるにあたって、担当者である私は今までにインターネット上で買い物をしたことはあっても、売ったことは一度もありませんでした。画像と文章だけで商品を売ることに、特に古着であるがゆえに一点ずつ状態が異なり、お客さんにとって必要な情報とは何か？日々、頭の中で巡らせていました。2019年の秋ごろから新たにkarukhana（カルハナ）の担当者としても動き出す中で、人員不足から一時的にオンラインストアの更新を止めざるを得なくなることもありました。

2020年に入ってから新型コロナウイルスの影響により、店舗へ来てくださるお客さんは減少していきました。関東圏内だけでなく、SNS上では同業や他業種の方々が営業自粛や、インターネット上での販売に注力をしていきました。kapreは商品のバリエーションの豊富さや価格では負けない自信がありました。掲載写真の構図や撮影場所などからオンラインストアを作り直すつもりで再開しました。

5月からは新たにスタッフも加わり、新体制でもっと多くのお客さんに知ってもらい、楽しく買い物できるようにしていきます。穏やかな日々に戻った時に気に入った服を着て、気兼ねなくお出かけを楽しむための一助になればと思います。

● kapre 千葉店



HP : kaprechiba.base.shop/

4月から千葉店もオンラインストアに出品・販売を開始しました。まずは柏店から運営のノウハウを共有し、その後は商品選びから採寸、出品作業を経て無事開店・・・そして1週間程経った頃、お買い上げの通知が届きました。初めてのお客さんは、実店舗の常連の方でした。購入後のレビューに「いずれまたお店にも行きます。今は身体に気をつけてください。」とお気遣いの言葉を頂き、心から励まされました。

トップページには「都町の古着屋kapre千葉店」という看板を掲げています。千葉店をご存知の方もそうではない方も、「ご近所のお店」という感覚で親しみを感じていただける店舗を目指しています。いつも遠方から衣類などをお送りいただいています会員、支援メンバーの皆さんにもJFSAの「リユース販売の場」をご覧くださいたら嬉しいです！



オンラインストアに掲載する商品の撮影中（kapre千葉店）

会員・支援メンバーを募集しています

2019年度 正会員 個人：137名、団体：9 賛助会員 個人：1064名、団体：7 （5月20日現在）

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）、サポーターグッズ（年1回）をお送りします。

●年会費（10月～翌年9月）

個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198 口座名：JFSA
＊活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい